



未来へとつなぐ新たな取組

スキー場の可能性を
後世に残すために

今年度からスキー場の新たな取組として、ゲレンデの夏の活用を開始しました。夏でもスキー場に来て楽しんでほしいとの思いから、7月中旬、ひめさゆりの花が終わりを迎えたころ、ボランテニアを募り、ゲレンデ上部約400mの間に100基もの鳥居を設置しました。地元住民を中心に、遠くは首都圏から約50名のボランテニアが集まり、子どもから大人まで協力しながら「南郷ブルー」の鳥居の設置作業を行いました。手慣れた様子で作業する地元企業の方もいれば、初めての工具にドキドキしながら作業を進める学生もあり、お互いに協力しながら作業を進めていました。完成した鳥居の道の頂上には、周辺の地域や山々を一望することができ、訪れた人が休憩できるようスキー場従業員の手によって「展望テラス」も設置されました。



▲バギーを楽しむお客さん

8月からはバギーコースを整備し、バギーの乗車体験を実施しています。スキー場のゲレンデを走行するスリル満点のコースは、大人でも楽しめるアクティビティとなっており、お盆期間中には多くの人が体験のためにスキー場を訪れていました。

また、冬の営業中には、スノーラフティングやスノーモービル体験など、スキー・スノーボードが難しいお客様でも楽しめる体験を実施し、シーズン終わりに四駆車両のゲレンデ走行イベントを行うなど、多くの人に色々な角度からスキー場を楽しんでもらうため、試行錯誤してきました。



▲スノーラフティング体験の様子

◀四駆車両走行イベントの様子

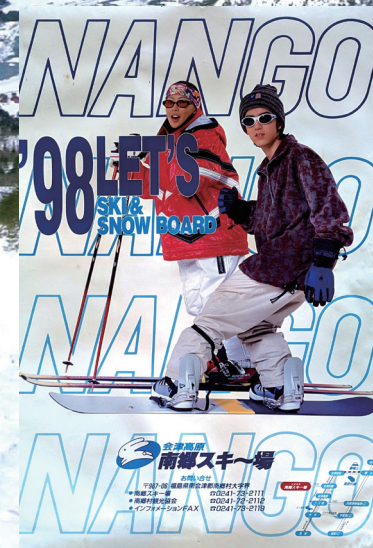


南郷スキ〜場

多くの人に愛されて50周年



昭和 50 年代のポスター



平成 10 年のポスター



令和 7 年のポスター

南郷スキー場は、冬期間の雇用対策と青少年育成、住民の健康増進を図ることを目的に、昭和51年12月に開業し、今年で50年を迎えました。町内4スキー場の中でも最も古い歴史を持ち、その後の南会津地方のスキー場開発の先進事例となりました。

開業後は昭和のスキーブームにより、大勢のスキーヤーが訪れていましたが、平成に入りスノーボーダーの受け入れも積極的に行うようになりました。国内有数のハーフパイプやキッカーを整備し、全国のスノーボーダーから「聖地」と呼ばれ、オリンピック金メダリストの平野歩夢選手が、小学校時代に練習拠点としていたことでも知られるようになりました。

従業員は、開業当時から現在まで南郷トマト生産者を中心とした農家が多く、南郷トマトを贅沢に使用した「トマトラーメン」などの手作りメニューは、グレ食目当てのファンを作るほどの人気を誇っています。

コロナ禍や少雪による営業制限など厳しいシーズンもありましたが、来場者目線を第一に考

え、地域と連携し、努力と工夫を重ねて営業を続けた結果、全国から注目されるスキー場となりました。

晴れた日に山頂から見られる、「南郷ブルー」と呼ばれる青空と雄大な自然の絶景を新たな取組のヒントとし、時代の変遷と観光ニーズに機敏に対応していく南郷スキー場の挑戦はこれから続いています。



開業当時の南郷スキー場



平野歩夢選手が訪れた際の写真

INTERVIEW



協議会で真剣に話し合う様子

南郷スキー場振興協議会は、地域住民と行政、指定管理者が連携して地域振興の中心となる南郷スキー場の継続経営の支援を目的に令和元年に設立されました。

現在は、南郷スキー場に関係するスポーツ団体や商工関係者、南郷トマト生産組合など13団体及び賛同者で組織しています。

Q 南郷スキー場振興協議会について教えてください。

南郷スキー場
振興協議会
あつし
会長 角田厚さん

南郷スキー場と同じく、南郷トマトもブランドを確立し50年以上も産地を維持して、地域の発展を支えてきました。町内でも長年にわたりブランドを維持し発展している産業は南郷トマトしかないのではないのでしょうか。

その産業と密接に繋がってきたのが、南郷スキー場です。スキー場は、トマト農家の冬期間の就業場所であり、また、南郷スキー場があることで、トマトの新規就農者としてU・イーターナー者が地域に定住する、トマト栽培面積が維持され南郷トマト産地としてさらに発展、この好循環が生まれてきたのです。

その他にも地元企業への波及効果を考えると、南郷スキー場が単なる観光施設やレジャー施設ではない存在意義がここにあると考えます。

地域にとって必要な南郷スキー場がこの先も継続経営できるように協議会としてできる限りの支援を行っていきたいと考えています。

Q 協議会が目指すものはなんですか。

南郷スキー場は今シーズンで開業50年を迎えます。指定管理者や町と共に50周年をお祝いできるようなイベントや集客の取組ができたらと思います。

また、念願であった新潟県三条市につながる国道289号八十里越えが、来年夏には暫定開通する予定です。南郷スキー場を中心に星の郷ホテルや道の駅きらら289と連携し、来町者へのおもてなしを地域の皆さんと計画できたらと思います。

Q 今後の活動には何を考えていますか。



鳥居設置に参加いただいた皆さん



協賛企業各社の支柱広告



応援隊参加者の木札



イベントで活用される米協賛

南郷スキー場が次々と展開している新たな活動の裏には、多くの人々の温かいサポートがあります。共にスキー場を運営し汗を流す地域住民の皆さんやイベントに参加して盛り上げてくださる全国のスキー場ファンの皆さんのような「人的支援」が、施設の新たな挑戦を支える大きな原動力となっています。

さらに、スキー場では現在、寄附や協賛活動の募集にも一層力を入れていきます。具体的な取組として、ファンの方々による「応援隊

多くのご支援に支えられて

「寄附」をはじめ、リフトの支柱を活用した「協賛企業募集」、そして農業が主要産業である地域ならではの「米協賛」などがあります。昨シーズンに多くの寄附が集まったことにより、スキー場をPRする新たな活動を実施することができています。

スキー場が打ち出す新しい企画や事業は、決して単独で成り立っているわけではありません。現地での活動から寄附や協賛まで、様々な形で寄せられる数多くの支援があるからこそ、これらの新たな活動が実現し、魅力あるゲレンデを未来へ残すための確かな力となっています。

応援が大きな力に

近年、各インターネットサイトで行われている全国のスキー場ランキングにおいて、様々な部門で上位を獲得しています。この結果は、日頃からスキー場を利用していただいている、ファンの皆さんへの応援のおかげです。一票に込められた「スキー場を応援したい」という一人ひとりの温かい思いが、上位獲得という素晴らしい結果として実を結びました。輝かしい順位はもちろん、全国から届くこうした応援の声も、スキー場を支える何よりの励みです。

～ yukiYAMA AWARD 2026 ～

- 接客が丁寧なスキー場 1位
- 施設が快適なスキー場 1位
- コースが面白いスキー場 1位
- 総合ランキング 5位

～ SKI RESORT RANKING 2025-2026 ～

- 東北エリア推したい穴場スキー場 1位

南郷スキー場は、これからも地域の皆さまと共に歩んでいきたいと思っています。地域に根差して活動する南郷スキー場振興協議会の皆さまと力を合わせ、スキー場を訪れる方に南郷の自然や食、人の温かさを感じていただける取組を進めていきたいと考えています。冬だけでなく、年間を通じて人が集まり、交流が生まれる場所を目指し、地域の皆さまと一緒に南郷地域を盛り上げていきたいと思っています。

南郷スキー場
支配人
のりゆき
山内紀之さん

これから地域とともに

ゲレンデで輝く
「yukiYAMA AWARD」の盾

◀南郷スキー場の
ホームページはコチラ



◀南郷スキー場の
Xはコチラ